

今から青春！ ゴールデンエイジを10倍楽しもう！

人生に余生はない いまここを精一杯！

厚生労働省が発表した昨年の人口動態統計によると、結婚期間が20年以上の熟年離婚は約4万3千件。前年より増えているそうぞうです。さらに暗いのは自殺者が約3万人、男子の死亡原因の第6位を占めているデータもあります。

昨年年度の死亡した人は97万人。厚生労働省によれば「高齢者が増えている割には、死亡者が増えていない」との事です。

この事実をどう読むかでこれからの生き方が変わっていくように思います。

病氣はともかく、離婚や自殺は少し自分の物の見方を変えれば避けられたかも・・・と思います。

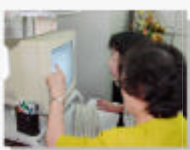
生きていく間は精一杯生き、人生ありがどうの言葉を残して自然に還る、そんな生き方をしている人の声に耳を傾けました。



絵・園芸 和子さん

平均年齢
65歳の

パソコン教室卒業生



5月10日に始まったパソコン教室中級講座は6月21日に無事卒業式を迎えました。



今後は、たまには集まって飲んで飲み会に発展していきたいそう！人生これから！



七転び八起き、人生回り道、 これからが私の本当の人生

アイこころ心理学研究所 所長
カウンセラー 堀部武司さん

14年前、会社を倒産させ、離婚をし、女房、娘たちとも別れ、独りぼっちになりました。その後、仕事も10数回替わり、何とか今日までやって来ました。

苦しい思い、淋しい思いをして来ましたが、今から考えてみるとこれまででの人生は運命を過ぎて、これから生きるための準備期間に過ぎなかったのではないかと思います。いろいろの失敗、つまづきが良い滋養になって、これからの本当に生きるための肥やしに変わったと思っています。

そしてこれからの人生は、あまり力を入れず、気張らず、気楽に、ええ加減に、あんまり偉くないが人と比較せず、自分の人生を生きていこうと思います。ささやかな私の経験が、同じ悩みを持つ人に役立ち、相談相手になれるならと思います、心理学の勉強に励んでいるところです。

まいカウンセラーになるために、次のことを心掛けて行くかと思っています。

1. ほんねで生きる。(自分に正直に生きる)
2. こうしなればぬらぬらというものはない。
3. 今までの常識に拘らない。
4. 自力、精神力とも退化して行くのではなく、むしろ鍛錬すればますます進化して行くものである。
5. 他人さんや娘たちに頼ることを当てにせず、独立独歩、自分の力で生きて行く。
6. 今まで生かして頂いたことに感謝し、今後は恩返しして生きて行く。

浪速楽笑さん

大阪市内でBMW正規ディーラーを経営、商は笑なり、など笑いが原点と考える自らの商売哲学をしたためた著書「笑てなはれや」を2009年12月に発刊。コミカルに表現した人間が生きていくうえでの笑いの重要性が讀者に好評。



浪速楽笑さん
田中 幸男さん
昭和9年生まれ
2003年版、楽笑さん
語録のカレンダーが発
売されます。

浪速楽笑さん
田中 幸男さん
昭和9年生まれ
2003年版、楽笑さん
語録のカレンダーが発
売されます。

笑いと感動が
人を動かす
物も動かす
金も動かす
楽笑 著

知らない世界大好き！

大阪市 短大非常勤講師
山田 せつ子さん

「人生50年の時に生を受けました私は人生80年に向かって歩いております。神様から私は知らないうちに30年の大きなオマケを頂きました。

真面目と正直で生きてきたからのご褒美と私はありがたく受けております。

しかし日本の社会は右往左往、ウロウロです。日本史上始めてのことがスタートするといふ不安に戸惑いがあるのではないのでしょうか。

しかし私は拍手喝采です。昔から、オリジナルで生きたい。が私の夢でした。

前例のない一生、自分らしい生き方をしたいと考えておりましたのでこれほどいい機会はありません。史上始めての生き方ができるのです。

先に何が起こるかわかりませんが私は分らない事が大好きなのです。

分らない事は私の心にワクワクドキドキ

世界一周の船旅をエンジョイ！

大阪府立大学校友会前会長 若狭谷 好一さん

昨年12月26日、3ヶ月間地球一周の旅に向け、神戸港を出発した。そもそも今回の船旅の動機は？

50歳の頃から、体力の増強を図るため、ジムにも通い始め、人一倍健康への心配りと努力を怠らなかつたつもりであったが、不覚にも5年前の秋、63歳の誕生日の前日、胃がん手術で胃の3分の2を失った。翌年6月には仕事から解放され、余生はストレスのない気楽な生活をエンジョイしようと思っして、住居も2年前に何とか便利で文化的な刺激の多い都心のマンションへ移した。

毎日、自転車で2分の距離にあるホテルのフィットネスで3〜4時間を過ごすのが日課となった。術後の経過も良好で心身ともにリ



注・旅行記は風の会のメルマガや、次回以降の風の会通信に掲載予定です。